

勅令第四百四十六號

明治廿八年勅令第三百三十三號臨時陸軍檢疫部官制本年十月三十一日限り廢止シ其事務ハ上陸地所管師團司令部ニ於テ之ヲ行ハシム

前項事務執行ノ爲メ該司令部ニ臨時必要ノ人員ヲ特ニ附屬セシムルコトヲ得

陸達第百号

明治廿八年勅令第四百四十六號ニ據リ本年十一月一日似島檢疫所ヲ第五師團司令部ニ彦島檢疫所ヲ第六師團司令部ノ管理ニ屬シ右兩所ニ於テ檢疫ヲ行ハシム

前項檢疫事務執行ニ就テハ明治廿八年陸軍省令第六號臨時陸軍檢疫部檢疫規則第一章第一條乃至第三條同第十三條第十四條第三章第四章ノ各條ヲ適用ス

明治廿八年十月二十三日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

送乙第三九七九号

第五師團司令部

本年陸達第百号ニ依リ檢疫所并ニ全避病院人員材料等ニ關スル件左之通り心得ベシ

一似島檢疫所全避病院ニ要スル職員中士官以上ニ在テハ別紙人員ヲ其師團ニ附シ各其事務ニ服行セシム但シ他師團ヨリ分遣ノ下士衛生部ヲ除ク兵卒ハ漸チ以テ原所屬ヘ復歸セシムヘシ

二似島檢疫所及全避病院ニ勤務中ノ衛生部下士及陸軍省雇員看病人其他ノ備役者ハ檢疫部ト協議ノ上必要ノ人員ヲ其師團司令部ニ引繼ヘシ

三第二項ニ依リ引繼ヲ受ケタル人員中他日不用トナリタル并陸軍省雇員ニ在テハ本省ヘ其他ノ者ハ原所屬ヘ復歸セシメ其旨本省ヘ報告スヘシ

四檢疫所及避病院ノ爲メ増員ヲ要スル場合ニ於テ其師團内人員ヲ以テ補足シ難キ并ハ其都度申請スヘシ

五似島檢疫所并ニ全避病院ノ建物及諸物品ハ總テ臨時陸軍檢疫部ヨリ其師團司令部ニ引繼ヲ受クヘシ但シ本文ノ他建物及諸物品ニ増減若クハ變更ヲ要スル并ハ

其都度申請ノ上區處ヲ受クハシ
六檢疫所及避病院ノ事務執行ニ關シテハ總テ宇品兵站兼碓泊場司令官ヲシテ監督
セシムヘシ

檢疫所停留人并ニ軍人消毒方ノ件ニ付伺

檢疫所停留人并ニ軍人消毒方ノ件ニ付左之各項相伺候條至急何分ノ御指令相成度
候也

一戰地ヨリ歸朝スル軍役人夫及御用船乗便者ハ本年省令第六号臨時陸軍檢疫規則
第二十四項ニ依リ消毒後檢疫所内ノ停留舎ニ五日間宿泊セシメ病毒潜伏ノ虞ナ
キニ至リ退舎セシメ居候處追々傳染病消滅ノ狀況ニ就而ハ爾後歸朝スル船内ニ
傳染病者現在セス若シクハ五日以上船員又ハ乗組部隊中傳染病ニ罹リタルモノ
ナク及傳染病流行地又ハ有毒船ト交通セサルモノニシテ檢疫官ニ於テ無毒ト認
メタルモノニ於テハ停留セシメス若シクハ停留時日ヲ伸縮スル事ニ相成度
ニ前條ノ場合ニシテ檢疫官ニ於テ全然無毒船ト認メタルモノニ在テハ乗組軍人ハ

上陸消毒ヲ要セス檢疫ヲ了シタル旨ノ証書ヲ附與シ(本年陸達第四十号檢疫証書
字ヲ「檢疫ヲ了」
ス」ノ字ニ改ム)其儘進行ヲ許可スル事ニ致度

明治二十八年十一月 日

第五師團長

陸軍大臣宛

指令

伺之通

送乙第四一四七号

第五師團司令部

金州半島ニ於ケル虎列刺新患者ハ去十月六日柳樹屯ニ登名アリシ以來絶テ無之全
ク撲滅セル旨占領地總督部ヨリ報告有之候間該地駐屯兵引揚ノ場合ニハ該運送船
ニ就キ一應患者ノ有無ヲ調査シ全ク患者無之ニ於テハ消毒ヲ行ハス直チニ各衛戍
地ニ向ケ復歸セシメ差支無之儀ト心得ヘシ

明治二十八年十一月二日

陸軍大臣侯爵 大山 巖

檢疫官心得

別紙檢疫官心得ハ未ダ部長閣下ノ檢閲ヲ經サル草案ニ有之候處開設ノ期日切迫シ
順序上之ヲ欠クハ檢疫連環ノ路ヲ絶テ候ニ付御參考迄艸案ノ儘及御回付置候也

臨時陸軍檢疫部事務官長

明治廿八年五月十二日

事務官 後 藤 新 平

檢疫官心得

一 檢疫官ノ職務ハ其關係甚タ重大ニシテ其澁滞ハ實ニ檢疫ヲ受クベキモノ、迷惑
ナルノミナラス檢疫豫防上ニ在テハ其時機ヲ失ハシメ運輸通信上ニ在テハ其敏
速ヲ妨グ歸スル所軍事上ニ甚カラザル影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ檢疫官ハ其
職務ヲ執行スルニ方テハ緩嚴宜ヲ得敏捷ニシテ且周密ナルヲ期シ其間上官若ク
ハ知己ニ對スルモ職務上必要ノ外言語ヲ交ヘ餘談ニ涉ルヲ許サス

一 檢疫上船舶ヲ區別シテ三種トス

甲 健康船舶

乙 疑シキ船舶

丙 有病船舶

(甲) 健康船舶ハ傳染病アル地方ヲ經過シタルコトナク又ハ傳染病汚染ノ船舶ト
交通シタルコトナキモノヲ云フ

(乙) 疑ハシキ船舶トハ傳染病アル地方ヲ發シ又ハ傳染病毒ニ汚染シタル船舶ニ
交通シタルモノニシテ現在該患者若クハ死者ナキモノ之ヨリ病毒ノ傳播シ來ル
ヘキ疑アルモノヲ云フ

(丙) 有病船舶トハ現在傳染病患者若クハ該病死者アルモノヲ云フ

(乙)(丙) 兩種ノ船舶ニ對シテハ隔離碇泊若クハ檢疫停船ヲ行ヒ消毒ヲ施行スル
ノ必要アリトス

一 陸軍々用ノ船舶ハ戰地ヨリ歸航スルモノナルカ故ニ甲種ノ健康船舶ト看做スヘ
キモノナシ故ニ一應陸軍檢疫官ノ尋問ヲ要セサルモノアルコトナシ

一 隔離碇泊ハ別ニ最短時間ニ一定ノ制限ヲ置カス船舶検査ノ上檢疫官ニ於テ船舶
ノ消毒又ハ人員若クハ物品ノ消毒不必要ト認ムルハ直ニ進航若クハ上陸若ク
ハ交通ヲ許可スヘシ

若シ必要ノ場合ニハ五日間以内ノ隔離碇泊ヲナサシムベシ但シ曾テ傳染病患者
ヲ發シタルコトアル船舶ニ對シテハ特ニ船舶臨檢ノ際注意スルヲ要ス

一 隔離碇泊中傳染病患者ヲ發スルトキハ船内ニ於テ交通ヲ絶タシムヘシ例之ハ下
等室ニハ患者アリテ上等室ニハ患者ナキ時又ハ上等室ニ患者アリテ下等室ニ患
者ナキ時又ハ下等室中ノ一部ニ患者アリテ他ノ一部ニ患者ナキ時ノ如シ若シ船
中各所ニ患者發生スルカ船中ノ區畫正シカラス交通遮斷スルモ其効ヲ見ルコト
難キモノ或ハ彼是レ交通ノ疑アリテ陸續患者ヲ發生スルトキハ檢疫停船ヲ命ス
ヘキモノトス

一 檢疫停船(丙)種ノ船舶中病毒傳播ノ恐著大ナルモノニ適用スヘシ此場合ニ於テ
少クモ五日以上進航上陸若クハ荷物ノ陸揚若クハ他船ト交通ヲ禁スヘキモノト
ス

但停船ノ場合ニ於テハ乗込人ヲ上陸セシメ停留舎ニ宿泊セシムベシ

一 隔離碇泊若クハ檢疫停船中ハ飲食物並ニ用水ノ注意ヲ嚴命シ必要ノ場合ニハ船
舶検査主任ノ軍醫ヲシテ之ヲ検査セシムベキモノトス

一 隔離碇泊ノ時間ノ長短又檢疫停船ノ日限ヲ增加スルハ其實況ニ應シ檢疫官ノ認
定ニヨル可キモノトス

一 船舶ノ實況ニヨリ患者ノ發生ヲ防遏スルニ必要ト認ムルトキハ隔離碇泊ヲ命シ
タル船舶ニ於テモ船中乗込人ヲ停留室ニ移シ更ニ船舶ノ消毒的大清潔法ヲ施行
スヘキモノトス

一 船艙ニ搭載ノ荷物ハ勿論其他ノ大荷物ハ直接ニ傳染病毒ニ汚染シタルモノニ非
サレハ先乗込人員及其携帶品並船舶ノ檢疫ヲ了リ船長ニ檢疫證書(甲號)ヲ交付シ
タル後未消毒貨物トシテ貨物廠ニ陸揚セシムヘキモノトス

貨物廠ニ於テ之ヲ未消毒倉庫ニ入レタル後前項貨物中消毒ヲ要スヘキモノヲ認
メ之ヲ檢疫所ニ送付シ消毒ヲ請求スル時ニ於テハ檢疫所ハ何時ニテモ操合セ其
消毒ヲ執行スヘキモノトス

此大荷物消毒ノ手續ハ各師團若クハ兵站運輸通信部ト協議ノ上別ニ定ムル處ニ
據ルヘキモノトス

左ニ記スル者ハ傳染病患者ト直接關係アリテ其病毒ニ汚染シタル場合ノ外消毒施

行ヲ要セサルモノトス

- 1 馬匹其他ノ動物
 - 2 炊事具
 - 3 工兵器具
 - 4 架橋材料
 - 5 電信器具
 - 6 野戰醫扱
 - 7 將校「カバン」其他ノ行李
 - 8 糧食器
 - 9 携帶武器及附屬品背囊亦之ニ属ス靴モ亦同シ
 - 10 大砲及附屬品
- 右ニ掲グル諸物品ニシテ傳染病毒ニ汚染シタルトキハ消毒若クハ燒却ニ付スヘシ
- 1 號ハ先其局部ヲ石炭酸溶水ニテ洗滌シ後海水ヲ以テ洗滌スヘキモノトス
 - 2 號ハ鐵屬品若クハ木製品ナルトキハ通常熱氣消毒ニ付スト雖漆器若クハ他

ノ塗物ハ石炭酸溶水ニ浸漬シ若クハ同水ヲ以テ拭フベシ物品ニヨリ寧ロ燒却スルヲ可トス

3 4 5 6 號ハ前項ニ同シ

但鐵屬品木製器具ト雖モ其積大ニシテ熱氣消毒ニ付スルコト能ハサルモノ其必要ニ方リテハ藥物消毒ニ付スベシ

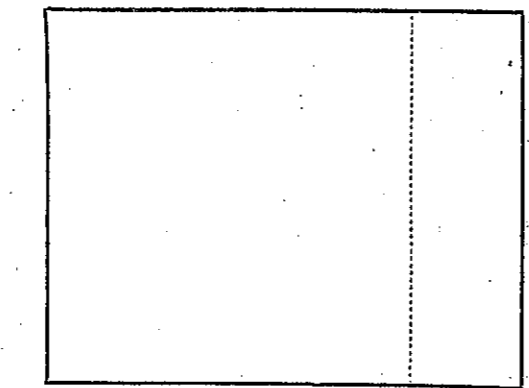
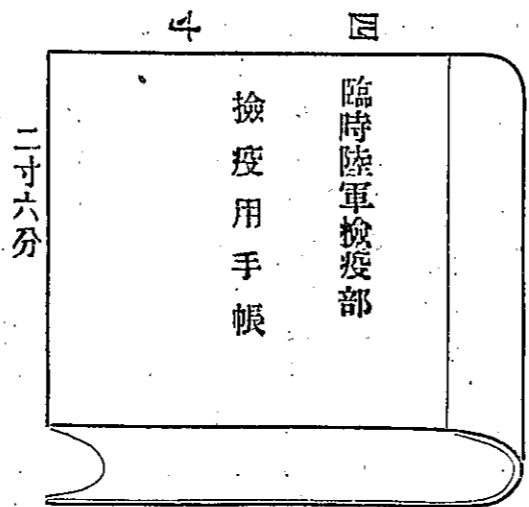
7 號ハ必要ノ場合ニ於テハ檢疫官之ヲ開カシメ検査ノ上消毒ヲ要スルモノアル片ハ其品質ニ隨ヒ熱氣若クハ藥物消毒ニ付シ又ハ燒却ニ付スルノ處分ヲナシ得ヘキモノトス若シ將校自ラ携帶上陸ノ後消毒ヲ要スルモノト憶ヒ檢疫所ニ消毒ヲ請求シ來ルトキハ消毒ヲ施行スヘシ此場合ニ於テハ運搬ノ費用ハ各將校ノ自費タルヘキモノトス

8 號ハ傳染病毒ニ汚染スルモノハ凡テ燒棄ス可キモノトス故ニ通常消毒ノ必要ナシトス

9 號ハ傳染病毒ニ汚染シタルモノ若クハ其疑アルトキハ藥物消毒ヲ施行スヘキモノトス

10 號モ前項ニ全シ但10 號ハ檢疫所消毒場ニ輸入シ難キヲ以テ船中ニ到リ其病
 毒汚染ノ部ニ藥物消毒殊ニ石炭酸ニ浸シタル雜巾ヲ以テ拭ヒ去リ又ハ其溶
 水ヲ以テ洗ヒ去リ後罎ヲ防ク爲ニ十分磨キ拭フヲ命シ置クヘキモノトス
 一 檢疫官ニハ檢疫官用ノ手帳ヲ交付シ置キ服務中傳票若クハ通牒等ノ用ニ供セシ
 ム手帳ノ各葉ニハ珠數様穿孔アリ用ニ臨テ切斷ニ便ス故ニ珠數様穿孔線ヲ中央
 トシ豫メ檢印ヲ爲シ置キ隨時號ヲ附シ又ハ號外トシテ之ヲ使用スル片ハ忙促ノ
 間頗ル便ナリトス其用法ハ各檢疫所ニ於テ所長檢疫官ノ間ニ議定スベシ今一々
 之ヲ舉ケス

一 燒却傳票ハ檢疫手續ノ所定ニ從ヒ別ニ之ヲ調製シテ各檢疫官ニ附與スヘシ
 一 船舶ノ雜作物等消毒掃除ノ爲メ破毀セサル可ヲサル場合ニ於テハ船長ニ協議ス
 ヘシ又雜作物陸軍々用船タルノ間陸軍省ヨリ造設セルモノナレバ其關係陸軍官
 吏ニ協議スヘシ急速ノ場合當該官吏其船中ニ在ラサル片ハ檢疫官ニ於テ必要ト
 認ムル片ハ之ヲ破毀スルヲ得ヘキモノトス



二寸六分

消毒法心得

別紙消毒法心得ハ未ダ部長ノ決判ヲ經サル草案ニ候處檢疫所開設ノ期日差迫リ順
 序上豫メ所員ニ示シ置クノ必要アルモノト認メ候ニ付不取敢原案ノ儘及御廻附候也
 明治二十八年五月三十一日

臨時陸軍檢疫部事務官長

事務官 後藤新平

消毒法心得

臨時陸軍檢疫部ニ於テ施行スル消毒法ハ燒却法、熱瀛消毒法、藥物消毒法ノ三種ヲ主用シ便宜通氣法、日晒法、乾燥法ヲ併用スヘシ

第一 燒却法

燒却ニ附スヘキモノハ左ノ如シ

一 傳染病者ノ吐瀉物及其他ノ排泄物

二 傳染病者ニ用ヒタル被服、寢具類ニシテ汚穢甚シク消毒後再ヒ用ニ供スヘキ目的ナキモノ

三 傳染病者ニ用ヒタル器具類ニシテ甚シク病毒ニ汚染シタルモノ

被服類ヲ燒却スルニハ豫メ衣囊等ヲ探リ彈丸火藥其他ノ有無ヲ檢スヘシ

燒却ニ附スルニハ燒却前昇汞水若クハ石炭酸水ヲ灌キテ取扱人自ラ病毒ニ感染スルノ虞ヲカラシムルヲ期スヘシ但時宜ニ依リ患者ノ吐瀉物及其他ノ排泄物

ハ埋却スルモ可ナリ此場合ニ於テハ豫メ吐瀉物及其他ノ排泄物ノ量ニ應シテ適宜

ノ消毒藥(全量ニ對シ十分一以上ノ石灰乳又ハ全量ニ對シ五分一以上ノ石炭酸水)

ヲ灌キ十分ニ攪和スルヲ要ス

第二 熱瀛消毒法

熱瀛消毒ニ堪フルモノハ左ノ如シ

絹布、綿布、麻布、毛布、毛糸、毛織物及綿類、并紙類、硝子器、磁器、其他木製品及鑛屬製品ノ

一部

被服類ニ熱瀛消毒ヲ施スニハ豫メ衣囊等ヲ探リ彈丸火藥其他摺附木等爆發又ハ

發火シ易キ物品ハ凡テ之ヲ取出スヘシ又鏽アル鐵器等ハ消毒中他物ニ其鏽色ノ

汚染セサル様注意スヘシ

熱瀛消毒ニ堪ヘサルモノハ左ノ如シ

革類、一部又ハ全部ノ革製品、漆器、其他ノ塗物類、護謨製品、護謨附品、糊附品、毛皮、象牙、

鼈甲、水牛角ノ類、并木製品及鑛屬製品ノ一部

其他血斑若クハ膿斑アルモノニシテ消毒後僅微タリトモ斑点ヲ遺スコトヲ恐ル

ハモノハ熱瀛消毒ヲ避クルヲ可トス

熱瀛消毒裝置ハ瀛罐ト消毒房トノ二部ヨリ成リ鐵管ヲ以テ之ヲ連繫ス

- (一) 蒸氣ハ蒸氣ヲ發生スル釜ナリ其構造及用法ノ詳細ハ別ニ蒸氣及消毒房ノ構造并其用法圖說(教示書)ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ畧スト雖モ蒸氣室ニ於テハ少クモ左ノ數件ニ注意セサルヘカラス
- 一 烟道及烟突ノ掃除ヲ怠ルヘカラス
 - 二 蒸氣室清潔ニ保ツコト
 - 三 蒸氣室備附ノ雜具ヲ順序能ク配置スルコト
 - 四 毎朝火具ヲ清潔ニスヘキコト
 - 五 機關手ヲシテ時々蒸氣鐘及其取付品ニ異狀ナキヤ否ヲ檢閲セシムルコト
 - 六 常ニ蒸氣室内ノ水量ニ注意シ絶ヘス定度ノ水量ヲ供給スルコトヲ怠ルヘカラス
 - 七 蒸氣室内蒸氣ノ壓力ニ注意シ其封鎖限界ヲ超過セシムヘカラス
 - 八 蒸氣室内蒸氣ノ壓力其測壓器ニ三十五磅ヲ示スニ至ラハ蒸氣鐘ヲ鳴シ何時ニテモ蒸氣ヲ消毒房ニ通シ得ヘキコトヲ熱氣消毒科ノ擔任者ニ報知スヘキコト
- (二) 消毒房トハ其中ニ物品ヲ入レ熱氣ヲ以テ消毒スル鐵房ナリ此房ハ橢圓形ノ重

殼圓筒ヲ横ニシタルモノニシテ前後ニ鐵扉ヲ有シ一面ノ扉ヲ排キ其中ニ鐵製蒸籠ヲ輸入シテ閉鎖シ消毒了ルノ後他面ノ扉ヲ排キテ其蒸籠ヲ引出スヘシ此蒸籠ニハ衣服其他熱氣消毒ニ堪フヘキ物品ヲ積入ル、モノニシテ其輸入輸出及運搬ハ消毒房前後側即チ未消毒側ト既消毒側トヲ連絡セル鐵道ニ藉ルノ構造ナリ而シテ重殼圓筒ノ外殼ニハ蒸氣ヲ通シ内殼ニ加温ヲ助ケシム其詳細ナル構造用法ハ別ニ蒸氣及消毒房ノ構造并其用法圖說(教示書)ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ畧スト雖モ少クモ次ノ諸件ニ注意セサルヘカラス

未消毒側(熱氣消毒科甲號)ト既消毒側(熱氣消毒科乙號)トノ別ヲ嚴ニシテ各擔任者互ニ交通スヘカラス

汽罐室ニ於テ蒸氣鐘ヲ鳴シ何時ニテモ消毒房ニ蒸氣ヲ通シ得ヘキコトヲ報スルトキハ先ツ外殼ニ蒸氣ヲ通シ其測壓器ニ三磅ヲ示スニ至ルヲ俟テ蒸籠ヲ房内ニ輸入シ扉ヲ閉鎖シテ後内殼ニ蒸氣ヲ通スヘシ消毒時間中(此時間ハ實地試驗確定ノ上別ニ熱氣消毒室ニ揭示スル所アルヘシ)外殼ニ於ケル蒸氣ノ壓力ハ三磅ヲ超過スヘカラス若シ之ヲ超過セントスル傾向アルトキハ蒸氣減縮瓣ヲ以テ加減スヘ

シ内殼ニ於ケル蒸氣ノ壓力ニ關スル注意及加減モ亦外殼ニ於ケルカ如クスヘシ
 而シテ消毒時間既ニ經過シタルトキハ内殼ニ蒸氣ノ流入ヲ止メ外殼ニ益々蒸氣
 ナ送リテ其測壓器ニ三拾磅ヲ示スニ至リ扉ヲ開キテ蒸籠ヲ引出スモノトス
 此間常ニ消毒房ニ附スル二箇(内殼及外殼)ノ測壓器ト驗温器トニ注目スルコトヲ
 怠ルヘカラス其蒸氣ノ緊張并過氣壓(一平方吋ニ付十五磅以上ノ壓力)過熱飽和ニ
 關スル心得ノ大要ハ左ノ如シ

一 蒸氣ト空氣トヲ混合セシムヘカラス房内ノ空氣十分驅除セラレタルマ否ヲ
 知ルニハ常ニ測壓器ト驗温器トニ注意スルヲ要ス即チレニナル及ツオイ子ル
 ノ表ニ照シテ之ヲ驗知スルナリ驗温器ノ度測壓器ノ度ニ比シテ低キニ過ルト
 キハ蒸氣ト空氣ト混和セルノ兆ナリ

二 蒸氣ハ緊張シテ飽和セサルヘカラス必ス過熱ヲ避クヘシ之ヲ知ルニハ驗温
 器ト測壓器トニ依リレニナル及ツオイ子ルノ表ニ照シテ鑑定スヘシ即チ驗温
 器攝氏百〇二七度ニシテ測壓器〇一過氣壓ナルトキハ其蒸氣ハ飽和セルナリ
 之ニ反シテ驗温器ノ度測壓器ノ度ニ比シテ一層高キトキハ其蒸氣ハ過熱セル

ナリ過熱ノ蒸氣ハ物質ヲ害シテ消毒ノ効力少ナキモノナリ

三 蒸氣ハ緊張シテ過氣壓アルヲ要ス過氣壓アルモノハ消毒ノ効チ完フスヘキ
 温度ニ達スルコト過氣壓ナキモノニ比スレハ迅速ニシテ且確實ナリトス而シ
 テ其過氣壓ハ一氣壓ノ二十分一乃至五分一ニテ足レリ是ヨリ一層緊張スルモ
 ノハ消毒作用一層速カニシテ且確實ナリト雖モ其高價ナルト二分一以上ノ過
 氣壓ニ至レハ警察上認許ノ手數ヲ要スル等ノ累アルトニ依リ外國ニ於テハ之
 ナ用フルモノ少ナシ然レトモ五分一以上ノ過氣壓必ス無用有害ナルニアラス
 唯過氣壓ノ度著ルシク高キニ失シ度外ニ過熱スルモノハ却リテ宜シカラス臨
 時陸軍檢疫部ニ採用シタル機關ハ之ヲ使用スルニ當リ調節自在ナラシムルヲ
 以テ其用法宜キヲ得ルトキハ頗ル便益ナリトス須ク純粹ノ靜止熱氣消毒法ヲ
 用ヒスシテ強度ノ緊張ヲ有スル蒸氣ノ流通法ニ據ルヘシ此流通法及流通時間
 ハ別ニ熱氣消毒室ニ揭示スル所ニ從フヘシ

四 消毒房ヨリ取出シタルトキ其物品ハ濕潤ナラサルヲ要ス

五 物件ヲ蒸籠ニ積ミ消毒房内ニ入レ過氣壓五分一ニシテ攝氏百〇五二度ニ達

シ一時間ヲ經レハ通常消毒ノ効十分ナリトス然レトモ温度百度ニ達シ一時間以上ニ至レハ必ス効アリトノ通説ニ泥ムヘカラス消毒房ノ構造及用法并消毒スヘキ物件ニ依リテ同シカラス其構造宜キヲ得用法巧ナルトキハ同熱度ニテ一層短時間ニ十分消毒シ得ルモノナリ故ニ消毒房ハ一々専門家ノ試験ヲ經テ別ニ其用法ヲ各消毒室内ニ揭示セシムヘシ(此心得ハ臨時陸軍檢疫部ニ採用シタル消毒房試験前ニ起草シタルモノナルヲ以テ唯其概要ヲ通説スルニ過キス局ニ當ル者ハ宜シク此通説ヲ會得シ各消毒室ニ揭示スル所ニ據リテ消毒ヲ行フヘシ)

臨時陸軍檢疫部ニ採用シタル熱蒸消毒裝置ハ左ノ諸要約ヲ以テ製作セシメタルモノナレハ其構造及用法ハ自ラ此原則ニ依リテ講究スルヲ宜シトス

- 一 過度ノ高壓過熱弱緊張ノ蒸氣ヲ避ケ飽和シテ且緊張セル蒸氣ヲ用フルコト
- 二 蒸氣ハ消毒房ノ上方ヨリ導入セサルヘカラス(下方ヨリ導入スル蒸氣ニ依リテ房内ノ空氣ヲ驅逐シ得ルハ唯過氣壓ノ存スルトキノミナリトス之ヲ上方ヨリ導入セハ過氣壓ナクシテ能ク房内ノ空氣ヲ驅逐スルコトヲ得ヘシ)

- 三 消毒房中ニ蒸氣ヲ充盈シタル後適度ノ過氣壓ヲ以テスルトキハ其消毒作用確實ナルヲ以テ須ク此過氣壓アルヲ要ス而シテ消毒ノ目的ヲ達スルニハ其過氣壓二十分一万至五分一ニテ足レリトス
- 四 消毒後房内ヨリ取出シタルトキ其物品ハ濕潤ナラサルヲ要ス
- 五 各裝置ニハ必ス運轉及用法ニ關スル教示書ヲ附セサルヘカラス

第三 藥物消毒法

藥物消毒ヲ施スヘキモノハ左ノ如シ

- 一 革製品、護謨製品及漆器ノ類、并象牙、鼈甲ノ類
 - 二 毛皮類
 - 三 木製品及鐵屬製品ノ一部
 - 四 家屋及船舶
 - 五 船底及船底水
 - 六 高熱蒸氣ニ依リテ血斑又ハ膿汁等ノ斑點ヲ侵蝕スルノ恐アル被服類
- 消毒藥及其溶解法ハ左ノ如シ

一 昇汞

昇汞ハ其一分ヲ水千分ニ溶解シ更ニ醋酸十分ヲ加ヘ之ニ十萬分一乃至二十萬分一ノ「フロキシシ」ヲ加ヘテ着色ス船舶消毒等ノ如キ淡水不足スル場合ニ於テハ潮水ヲ以テ溶解スルモ妨ナシ

二 石炭酸

石炭酸ハ通常其五分ヲ水百分ニ溶解ス但場合ニ依リ洗滌拂拭ノ用ニ供スルニハ其二分ニ水百分ヲ加フルモ可ナリ

三 煨性石灰

煨性石灰ハ粉末ノ儘之ヲ撒布シ又ハ之ヲ水ニ混和シテ石灰乳トナス其塗擦用ニ供スルモノ(濃厚石灰乳)ハ石灰一分ヲ水四分ニ混和シ其排泄物ニ灌加スルノ用ニ供スルモノハ石灰一分ヲ水十分ニ混和シ其船底ニ注入スルノ用ニ供スルモノ及洗滌用ニ供スルモノハ石灰一分ヲ水百分ニ混和ス以上ハ消毒藥溶解法ノ大要ヲ示シタルモノナリト雖モ便宜上濃厚溶液ヲ製シ置キ用ニ臨ミテ之ニ水若干量ヲ加ヘ適度ニ稀薄ナラシムルカ如キハ固ヨリ臨機ノ

處置ニ任スヘシ

消毒藥ノ用法ハ左ノ如シ

- 一 昇汞水ハ有力ノ消毒藥ナリト雖モ物質ヲ害シ且其毒性劇甚ナルカ故ニ貴重品若クハ食器類并被服ノ消毒ニ使用スヘカラス若シ之ヲ用ヒテ消毒シタルトキハ消毒後十分ニ淡水若クハ潮水ヲ以テ洗滌スヘシ又昇汞水ハ燒却ニ附スル場合ヲ除ク外糞便ノ消毒藥トシテ使用スヘカラス
- 二 石炭酸水ハ貴重品ノ消毒ニ用フルモ昇汞水ニ於ケルカ如ク物質ヲ害セス且毒性モ甚シカラス故ニ用法宜キヲ得ルトキハ最モ汎ク供用スルコトヲ得ヘシ就中灌漑洗滌撒布拂拭ニ適當ナリトス
- 三 煨性石灰若クハ石灰乳ハ土地家屋及船舶消毒ノ用ニ適シ其他排泄物ノ消毒ニモ効アリ

以上掲グル所ニ從ヒ之ヲ各種ノ物品ニ應用スヘキ注意左ノ如シ

- 一 革製品、護謨製品及漆器ノ類ニ對シテハ先ツ石鹼水又ハ石炭酸石鹼水ヲ以テ洗ヒ次ニ石炭酸水ヲ以テ洗滌シ若クハ當初ヨリ石炭酸水ヲ以テ洗滌スヘシ又

- 撒布器ヲ以テ雨注スルモ可ナリ
- 二 鐵屬製品ニ對シテハ石炭酸水ヲ以テ洗滌シ若クハ之ニ浸シタル雜巾ヲ以テ拭フヘシ又撒布器ニ依ルモ可ナリ
前二項ニ對シテハ昇汞水ヲ用フヘカラス
- 三 木製品家屋及船舶ニ對シテハ其品質性狀ニ依リ昇汞水ヲ用フルモ石炭酸水若クハ石灰乳ヲ用フルモ可ナリ但鐵製船舶ニ昇汞水ヲ用ヒタルトキハ用後十分丁寧ニ海水洗滌ヲ施行セサルヘカラス(船舶消毒ノ方法ニ就テハ消毒法論中ノ船舶消毒法及船舶消毒須知并其追補ヲ參照スヘシ)
- 四 船底及船底水ニ對シ昇汞水ヲ用ヒテ消毒スルニ當リテハ特ニ注意ヲ要ス此消毒有効ノ程度ヲ定ムルニハ銅貨ヲ該水中ニ投シ置キ貨面ニ汚穢銀白色ヲ呈スルヲ待テ之ヲ驗知スルノ法アレトモ昇汞水ノ使用ハ船體ニ危害ヲ與フルノ弊アルヲ以テ寧ロ石灰乳ヲ用フルノ安全且有効ナルニ若カサルナリ然レトモ石灰乳ノ用法宜キヲ得サルトキハ船底ニ沈澱シテ凝塊ヲ生シ船底内ノ聯通孔ヲ閉塞スルニ至ルコトアリ注意セサルヘカラス

五 高熱蒸氣ニ依リテ血斑又ハ濃汁等ノ斑點ヲ侵蝕スルノ恐アル被服類ニ對シテハ先ツ二十倍ノ石炭酸石鹼水ニテ其局部ヲ洗ヒ然ル後熱氣消毒ニ附スルカ又ハ礮液ヲ以テ煮沸スルヲ可トス

船舶消毒法須知

船舶ノ生活方法ハ陸上ノ生活方法トハ自ラ異ナル所アリ故ニ檢疫ノ爲メ船舶ニ臨檢シ消毒法ヲ施行セントスル者ハ先ツ其構造ノ大要ニ通セサル可ラス從來船舶消毒上ニ肯綮ヲ得サルノ弊多キハ必竟檢疫官タル者之レカ智識ニ欠乏スル所アルニ由ラサル無キヲ得ンヤ臨時陸軍檢疫部ニ於テハ此ニ鑑ル所アリ即チ忙卒ノ間タルニモ拘ハラズ先ツ檢疫ニ從事スル下士卒ヲシテ實地ノ演習ヲ爲サシメ然ル後ニ實務ニ服セシメントテ經畫セラル寔ニ能ク其順序ヲ得タルモノト謂フヘシ然レモ今日ノ場合ニ際シ之レカ教習ニ供スルノ書繫ニ過グルハ却テ要領ヲ得ル能ハサルノ恐アリトス依テ直接必要ナル問題ヲ掲ク其説明ヲ付シ下士卒實務上ノ記憶ニ便シ他ハ主トシテ實地ノ訓練ニ讓レリ若夫其理論ト實務ノ詳細ハ臨時陸軍檢疫部長見玉閣下ヨリ發布セラレタル消毒法論中船舶消毒法ニ詳カナリ就テ見ルベシ

臨時陸軍檢疫部事務官長

明治二十八年五月十日

事務官 後藤新平識

船舶消毒方須知

第一 船舶消毒掃除ノ爲メ檢疫官以下ヲシテ船内各部ヲ分擔セシムルノ方法ハ如何ニスベキカ

大抵船舶ハ四區ニ分ツモノ多シ故ニ大ナル船舶ノ大掃除ヲ施行スルニハ船舶消毒ノ爲ニ船内ニ派遣スベキ檢疫下士卒一組ヲ四分シ適當ノ人夫ヲ附シ各一區畫ヲ分擔セシムルヲ可トス

第二 一千噸以上ノ船舶ヲ迅速ニ充分ナル消毒の大清潔法ヲ施行スルニ大約幾干ノ人ト時間トヲ要スルヤ又船中傳染病毒汚染ノ部分ノミヲ消毒スルニハ大約幾干ノ人員ト何時間ヲ費スベキカ

船舶各部ノ構造ト其時ノ狀況トニ由リ多少差アルヘキモ五十人ヲ以テ一千噸以上ノ消毒の掃除ヲ行フキハ之ヲ數時間ニ了ルヲ難シ故ニ短時間ニ施行スルニハ多數ノ人員ヲ増加セサルヘカラス大凡百名アレハ三四時間ニ了ルヲ得ヘシ然レモ船長

ニ謀リ船中ノ水夫ヲシテ之ヲ補助セシメ檢疫官及檢疫下士卒之ヲ監督シ且之ニ從事スルノ方法トセハ迅速ニ其消毒ヲ了ルコトヲ得ヘシ又船舶中病毒汚染ノ疑アル場所ノミヲ消毒スルニハ檢疫下士卒及人夫四十人アレハ二三時間ニテ足レリ此場合ト雖モ船内掃除并ニ案内ニ熟セル水夫ヲシテ之ヲ助ケシムル様船長ニ協議ヲ遂ケ其助力ヲ得ハ頗ル便利ナリトス

第三 船内消毒ヲ要スベキ船舶ニ到ラバ如何ナル手續ヲ履ムベキヤ

船長ニ旨ヲ告ケ各船舶多少構造ヲ異ニスルガ故ニ先其船内構造ノ大略ヲ問フコトヲ要ス且可成的檢疫官ニ消毒施行ノ便利ヲ與フル様船長ヨリ船内各關係者ニ命令ヲ傳フルコトヲ請求スベシ

第四 船内ニテ實際消毒其他掃除等ヲ主管スルモノハ船員中ノ誰ナルヤ一等運轉手ハ船長ノ命ヲ受ケ(船長不在ノ節ハ)責任ヲ以テ其事ヲ主管スルヲ一般ノ慣例トス

第五 通常船内ニ於テ尤モ不潔ナル場所ハ何處ナルヤ

船室ニ於テハ水火夫室船艙内ニ於テハ前後ノ「ビーク」「ビルジ」腔庖厨及其近傍同等

ナリ

第六 「ピーキ」トハ何處ナルヤ

船ノ前後兩端ニ各區畫ヲ爲シタル場所ニテ多クハ船用品ノ貯藏所ナリ

第七 「ビルジ」腔トハ如何ナル場所ヲ云フヤ又其洗滌裝置ハ如何

「ビルジ」腔ハ艙内ノ下水トモ云フベキ汚水ノ滯滯スル場處ナリ其汚水ヲ排出スル爲メ蒸氣「ポンプ」及手「ポンプ」ノ裝置アリ否ヲサレバ支水壁ニ「スルース」ノ設ケアリテ汚水ヲ機關室下ノ「ウエル」ニ集メテ艙外ニ排出スルナリ又充弁ノ清潔ヲ要スル片ハ「ビルジ」腔ノ蓋即チ「リンパーポート」ヲ取り外シ「ベイヤ」ヲ「手」ニシテ汲ミ出タシ洗滌スヘシ

第八 船舶構造ノ異ナルニ隨ヒ「ビルジ」腔ニモ差異アリヤ

二重底ノ船舶ニ於テハ「ビルジ」腔ハ艙底ノ兩側ニアリ又單底ノ船舶ニ於テハ中央「キール」ノ兩側ニ在リテ其形狀モ自ラ異ナレリ而シテ單底船舶ニ於ケル「ビルジ」腔ノ掃除ハ最モ困難ナリトス

第九 「スルースウワルヴ」トハ何ゾ

「スルースウワルヴ」トハ各支水壁下部ニテ「ビルジ」腔ノ汚水ヲ双方相通セシムル爲メニ設ケアル小扉ニシテ甲板ノ上ヨリ開閉スルヲ得

第十 支水壁(ボルクヘッド)トハ何ゾ

船艙ヲ各區ニ分ツ爲メニ設ケタル鉄壁ナリ

第十一 船舶掃除ニ要スル器具ノ種類名稱如何

左ニ列記ノ器具ヲ要ス

- 一、ヘヤーカーツシヨンプルーム
- 二、パライブルーム
- 三、デツク、スク、サザ
- 四、チヤイナ、ブルーム
- 五、スウツツ
- 六、スコアリング、ブラツシユ
- 七、スチール、ブラツシユ
- 八、麻製スウツツ

九、バケツト

十、棕梠製把槁（一名はうすり）

十一、室内用稜形ブラツシユ

十二、柄付ブラツシユ

十三、ペーラー

十四、水桶

第十二 消毒薬ヲ用ユル法及其後ノ洗滌清潔法如何

當時ノ船舶ハ主ニ鉄製ナルヲ以テ強キ酸類若クハ其他腐蝕力甚タシキ藥劑例ヘハ昇汞等ヲ使用スルハ大ニ注意ヲ要ス可成的其用ヲ避クベシ若シ之レヲ使用シテ消毒シタル后ニ於テハ能ク洗滌シ或ハ拭ヒ取ヲサルヘカラス若クハ之ヲ洗滌シ或ハ拭ヒ取ルコト能ハサル場處ニハ他ノ藥劑即チ石灰乳ヲ用フヘシ又客室ニ於テ消毒ヲ行ヘタル後ハ總テ取り外シ得ル部分ハ甲板上ニ取出タシ充分洗滌シ其他ノ部分ハ充分海水ヲ注クカ或ハ拭ヒ取ルベシ又不潔物ノ附着スル部ハ消毒薬ヲ注キ後「スチールブラツシユ」ニテ擦淨スベシ

第十三 總テ消毒薬ヲ注キタル後洗滌スル方法ハ如何

船内備付「ポンプ」ヲ使用スベシ

第十四 「スカッパ」トハ如何

「スカッパ」ハ上甲板ニ於テ汚水ヲ船外ニ排出スル水道ナリ故ニ洗滌時ニハ毎ニ注意シテ「スカッパ」ヲ開放スベシ又中甲板ニ在ル「スカッパ」ハ水ヲ「ビルジ」腔ニ導ク穴ナリ之レ總テ甲板ノ両側ニアリ

第十五 「エーヤ、ポート」トハ如何

「エーヤ、ポート」ハ客室ニ空氣ヲ流通セシメ光線ヲ射入セシムル爲メニ設クル各舷側ノ窓孔ナリ

第十六 「ハッチ」トハ如何

「ハッチ」ハ大量ノ貨物ヲ出納シ且艙内ニ光線ヲ導ク處ニシテ甲板中央ニアル長方形ノ出入口ナリ

第十七 「カーゴ、ポート」トハ如何

「カーゴ、ポート」ハ貨物ヲ出納スル舷側ノ窓口ナリ

第十八 消毒中右二種ノ「ポート」及「ハッチ」ハ如何ニナシ置クヤ
總テ開放シ充分空氣ノ流通ヲ計ルベシ

第十九 「ウインドセイル」トハ如何

「ウインドセイル」トハ帆布製ノ大且長キ無底囊ナリ是「ハッチ」上ヨリ吊リ下ケ艙内ニ
空氣ヲ入ル、爲ニ用ユ消毒洗滌后風ヲ入レ乾燥スルニ宜シ

第二十 通氣器「ウエントレーター」トハ如何

「ウエントレーター」トハ甲板ヨリ艙内ヲ通シテ取付ケタル大凡直徑一尺計リノ鉄管
ニシテ其上部ハ煙管狀ヲナシ甲板上六七尺突出シ回轉自在ニシテ艙内ニ風ヲ通ス
ルノ用ヲナスモノナリ

第廿一 上等室内ノ如キ絨氈或ハ「テイルグロース」ヲ敷置キタル場處ハ如何
ニナスヤ

上等室内ニハ敷物ヲ剝キ消毒藥石炭酸水ヲ撒布シ若クハ石灰乳ヲ以テ洗滌ス絨氈
ノ如キ敷物ハ石炭酸水ヲ充分ニ注キ日光ニ乾カシ「テイルグロース」ハ石炭酸水ヲ充
分ニ注キ後雜巾ニテ拭ヒ取ルベシ又絨氈モ時宜ニ依リテハ熱氣消毒法ヲ施シテ可

ナリ

第廿二 檢疫停船ヲ命シタル船舶ノ處置ハ如何

檢疫停船ヲ命シタル船舶ハ船舶ノ消毒的大掃除ヲ行ヒ且「ビルジ」腔ヲ開キ洗滌スベ
シ

第廿三 「ビルジ」腔ノ消毒洗滌ハ何人ヲシテ施行セシムベキヤ

「ビルジ」腔ヲ排キ大掃除ヲナストキ其船舶ノ一等運轉手若クハ其主幹ニ施行方法
ヲ協議シ船舶乗組員ヲシテ消毒洗滌ニ從事セシメ之ヲ監督スベシ

第廿四 隔離碇泊ヲ命シタル船舶ノ處置ハ如何

隔離碇泊ヲ命シタル船舶ハ消毒掃除ヲ必要ノ各部ニ施行シ其「ビルジ」腔ノ洗滌ヲモ
施行スルコトアルベシ

第廿五 「ビルジ」腔洗滌ノ必要ハ如何ニシテ判定スベキヤ

船舶検査主任ノ檢疫官ハ「サチンヂングパイプ」口即消息管口ヨリ消息子ヲ入レ其淺
深ヲ測リ又ハ「ポンプ」ニテ「ビルジ」腔水ノ一部ヲ汲ミ出サシメ「ビルジ」腔洗滌ノ必要
ナルヤ否ヲ判定スベシ

第廿六 「ビルジ」腔洗滌ノ方法ハ之ヲ豫定スルヲ得ベキヤ
 隔離碇泊中「ビルジ」腔ヲ洗滌スル爲メ便宜方法ヲ撰用スルノ場合ニ於テモ一等運轉
 手若クハ其主任者ト協議シ實際ニ照シ其方法ヲ定ムルヲ要ス各船舶結構同ジカラ
 サルヲ以テ洗滌方ヲ豫定スルコト難シトス

第廿七 病毒汚染ノ場所ハ如何ナル處置ヲ施シ安心スベキヤ

船中患者若クハ死者アリテ病毒ニ汚染シタル場處ハ先ツ石炭酸強溶水若クハ石灰
 乳ヲ注キテ後掃除ニ着手スル時ハ能ク傳染毒ヲ防グノ力アリ且該患者若クハ死者
 アリシ室ニ於テハ成ル可ク塵埃ノ飛揚スルコトヲ避クベシ其法ハ石炭酸溶水ヲ如
 露ニテ撒布スルカ又消毒水撒布器ヲ以テ室内ニ撒布スベシ若シ消毒藥無キトキハ
 常水ヲ撒布シテ其室内ニ入り塵埃ノ飛散ヲ沈ムルモ尙ホ豫防ノ効アリトス

船舶消毒法須知追補

(一) 船舶内裝飾ナキ部分ノ壁面、床面、其他階段等ノ消毒ニ供スル塗擦用石灰乳ノ
 調度并洗滌消毒ニ用フル石灰乳ノ調度如何

船内裝飾ナキ前記ノ部位ニ大清潔法ヲ行フコトヲ要スル場合ニ於テハ煖性石灰一
 分ニ水四分ヲ加ヘテ調製シタル石灰乳ヲ塗擦スヘシ塗擦後二十四時間ヲ經レハ之
 ヲ洗ヒ落スモ可ナリ若シ洗ハスシテ擦リ落ストキハ石灰粉飛散シテ堪フヘカラサ
 ルノ塵ヲ發ス故ニ必ス擦リ落スヘカラス

洗滌用石灰乳ハ煖性石灰一分ニ水十分ヲ混和セルモノニ用ニ臨ミテ更ニ十倍ノ水
 ヲ加フヘシ

(二) 船内裝飾ヲ施セル室壁等ノ消毒法ハ如何

船内裝飾ヲ施セル室壁、油繪等ニシテ到底消毒ノ必要ヲ認ムルモノハ柔軟ナル布巾
 ナ五十倍ノ石炭酸水ニ醃シ絞リ上ケテ丁寧ニ拭擦シ又ハ麵包ヲ以テ拭ヒ取リ速カ
 ニ乾燥セシムヘシ但シ額面其他掛物類等右石炭酸水ニ醃シタル布巾又ハ麵包ヲ以
 テ拭擦シ難キ貴重品ニアリテハ細心注意シ唯乾燥セル柔軟ノ布片ヲ以テ拭ヒ取ル
 ヘシ

(三) 船内ニ於テ衣服、毛布、寢臺、家具類等ノ消毒ニ供スヘキ消毒藥如何

船内ニ於テ衣服類、毛布等ヲ消毒スルニハ成ルヘク蒸氣ヲ利用シ頃日臨時陸軍檢疫

部ニ於テ考案セル輕便船内熱氣消毒装置ヲ用ヒ熱氣消毒ヲ行フヲ可トス若シ之ヲ行ヒ難キ場合ニハ五十倍ノ石炭酸水ヲ撒布シ日光及空氣ニ曝シテ乾燥セシムヘシ
寝臺家具類等ハ五十倍ノ石炭酸水ニ醃シタル雑巾ヲ以テ摩擦シ琢磨彫刻又ハ腐蝕法ヲ施セルモノ其他鐵屬製ノ家具ニアリテハ更ニ乾燥セル布巾ヲ以テ拂拭スヘシ

(四)「ビルジ」水ノ消毒ニ應用スヘキ石灰乳ノ調度如何

「ビルジ」水ノ消毒用トシテハ百倍ノ石灰乳ヲ應用スヘシ之ヲ調製スルニハ最初各船中ニ備ヘアル大桶中ニ十倍ノ石灰乳ヲ製シ次ニ水ヲ充テタル小桶中ニ大約其水量ノ九分一ニ相當スル分量ヲ以テ右十倍ノ石灰水ヲ加ヘ攪拌シテ「ビルジ」腔内ニ注入スヘシ

(五)「ビルジ」水ノ消水劑トシテ昇汞水ト石灰乳トノ優劣如何

從來「ビルジ」水ノ消毒ニハ昇汞水ヲ用フト唯昇汞水ハ其毒性劇甚ナルカ故ニ使用ニ臨ミテ戒心ヲ要スルノミナラス「ビルジ」水中一般ニ之ヲ混和セシムルコト難ク動モスレハ消毒作用ノ普及セサルコトアリ之ニ反シ百倍ノ石灰乳ヲ以テスルトキハ用ニ臨ミ敢テ甚ダシク戒心ヲ要セサルノミナラス「ビルジ」腔内消毒作用ノ及ハサル所

ヲ生スルノ憂ナシ

(六)「ビルジ」水消毒ノ必要ヲ認ムルニ當リ貨物ヲ滿載セルカ爲ニ「ビルジ」腔ニ通路

ヲ得難キ場合ニ於テ其貨物ヲ損セサル程度迄「ビルジ」腔内ニ石灰乳ヲ注加スヘキ方法及其注加量如何

船内貨物ヲ滿載シ「ビルジ」腔ニ通路ヲ得難キニモ拘ハラス「ビルジ」水ノ消毒ヲ要スルトキハ甲板ヨリ唧筒ヲ通ジテ「ビルジ」腔内ニ石灰乳ヲ注下スヘシ此場合ニハ時々水
準管内ノ水ノ高サヲ測リ注下セル石灰乳ノ爲ニ搭載貨物ヲ損害セサル様注意スル
ヲ要ス而シテ注下後十二時間ヲ經レハ其「ビルジ」水ヲ港内ニ排出セシムルモ差支ナ
シ又其注下スヘキ石灰乳ノ量ハ木船ニアリテハ船体ノ縱經一迷ニ付四十乃至六十
「リートル」鐵船ニアリテハ船体ノ縱經一迷ニ付六十乃至百二十「リートル」複底水泉及
隨テ有スル船ニアリテハ二十、八十乃至百立方迷ヲ以テ概算ノ標準ト爲スヘシ但支
水壁ヲ有スル船舶ニアテハ其船体各部毎ニ前述ノ方法ニ依リ石灰乳ヲ注下スルヲ
要ス

(七) 船艙ニ搭載シタル荷物ノ消毒ハ如何

病毒汚染ノ場合ニ限り消毒スヘシ

(八) 船艙ニ搭載シタル荷物ニシテ病毒ニ汚染シタルモノ、消毒法ハ如何
熱瀝消毒ニ堪フルモノハ之ヲ施行スヘシ其之ニ堪ヘサルモノハ藥物消毒ヲ行フヘシ又其價ノ廉ナルモノ若クハ消毒後再ヒ用ニ供シ得サルモノハ燒却スヘシ

(九) 火砲其他容積大ニシテ熱瀝消毒房ニ收容シ難キモノ、消毒法ハ如何
容積過大ナルモノハ其病毒汚染ノ局部ニ藥物消毒ヲ行フヘシ而シテ之ヲ行フニハ品質ニ應シテ消毒藥ヲ擇ミ損害ノ虞ナキ藥液ヲ以テ洗ヒ又ハ其藥液ニ浸シ或ハ藥液ニ浸シタル雜巾若クハ麻製「スウハブ」ヲ以テ拭ヒタル後「ブラツシ」ニテ擦拭シ又ハ綿製「スウハブ」ニテ拭フテ法トス然レトモ時宜ニ依リ手唧筒(種々ノ形アリ)ヲ以テ藥液ヲ灌キ之ヲ洗滌スルモ可ナリ其他容積過大ニシテ熱瀝消毒房ニ容ラサルモノハ之ヲ分解シテ熱瀝消毒ニ附スルコトヲ得ヘシ

(十) 藥物ノ選用ニ關スル注意ハ如何
藥物中現今主トシテ用ヒラル、モノハ昇汞水、石炭酸水及石灰乳ナリ就中昇汞水ハ有力ノ消毒藥ナレトモ物件ヲ侵蝕スルノ虞アルカ故ニ鐵屬製品、塗物類等ニ適セザ

レトモ多少侵蝕ニ堪フヘキ木製品又ハ陶器類ニ適用スルハ可ナリ最モ注意スヘキハ其物品ノ飲食器ナルヤ否ニアリ是レ昇汞ハ恐ルヘキ劇毒藥ニシテ少量ト雖尙致命ノ因トナルコトアレハナリ然ルニ石炭酸ハ前者ニ比シテ危害頗ル少ナク其溶液(例ヘハ五拾倍以上ニ拾倍)ハ殆ント物質ヲ侵スコトナキカ故ニ用法宜キヲ得ハ容易ニ其危害ヲ避ケテ專ラ實効ノミヲ收ムルコトヲ得ヘシ又石灰乳ニ至リテハ殆ント全ク無害有効ナレトモ唯惜ムラクハ之ヲ適用スヘキ場合尠ナク家屋、船舶、土地等ノ消毒ニ適スト雖一般ニ物品消毒ノ用ニ供シ難シ

(十一) 消毒ニ附スヘキ荷物ハ之ヲ解クヘキカ
然リ但布囊又ハ菰包ノ類ニシテ蒸籠ニ容レ得ヘキモノハ敢テ之ヲ解クニ及ハス直ニ消毒房内ニ輸入シテ可ナリ唯其内ニ熱瀝消毒ニ堪ヘサルモノ例ヘハ革類及爆發藥等ノ存スルヤ否ヲ検査スルヲ要ス検査ノ上革類ノ被服ニ附着スルモノアルモ之ヲ廢物ニ歸シ妨ナキ場合ニ於テハ其儘熱瀝消毒ニ附スヘシ

(十二) 檢疫上健康船舶ヲ待ツノ方法如何
現在健康ノ船舶ナリト雖暫テ患者アリシヤ否ヲ糺シ若シ之レアリタリトセハ其時

日ヲ尋子五日以前ナレハ成規上之ヲ安全ト認メ敢テ消毒スルヲ要セス但其以前ニ於テ多數ノ患者ヲ生シタル場合ニ於テハ將來患者ヲ偶發スルノ因トナルコトアリ宜シク注意スヘシ

(十三) 患者死者アリシ船舶ハ消毒後人ヲ搭載シ得ルカ
然リ消毒完了後ハ妨ナシ但此消毒完了ノ意義ハ單ニ消毒ヲ施行シタルノミノ謂ヒニ非ラス時トシテハ必ス一定ノ時日ヲ經過シタル後ニアラサレハ完了ト稱スルコトヲ得サルモノアリ

(十四) 如何ナル場合ニ於テ一定ノ時日ヲ經過セサル以前人ヲ搭載シ得ヘカヲサ
ルカ
船舶ニシテ檢疫停船ヲ命セラレタルトキハ一定ノ時日ヲ經サレハ人ヲ搭載スヘカ
ラス然レモ隔離碇泊ヲ命セラレタル船舶ハ敢テ消毒施行后一定ノ時日ヲ經サルモ
人ヲ搭載スルコトヲ得又消毒后未タ充分乾燥セサルモ非常ノ場合ニ於テハ特ニ敷
物ニ注意シテ人ノ搭載ヲ許可スルコトヲ得ヘシ

(十五) 檢疫停船ト隔離碇泊トノ別ハ如何
一言以テ之ヲ蓋ヘハ輕重ノ差アルノミ甲ハ乗込人及乗組人(船員)ヲ停留舎ニ移シ船
中ニ大消毒の大清潔法ヲ施シ消毒完了ヲ確認スル爲ニ五日以上ヲ經過セシムルニ
アラサレハ不可ナリト認メタル場合ヲ謂ヒ乙ハ消毒ヲ施行セサレハ病毒傳播ノ虞
アルヲ以テ他ノ船舶ト隔離シテ碇泊セシメ消毒ヲ施行シ其病毒傳播ノ虞ナシト思
料スルニ至レハ必スシモ五日以上ヲ經過スルヲ要セス其以内ニ於テモ檢疫官ニ於
テ交通ヲ許可スルヲ得ル場合ヲ謂フ

(十六) 消毒后直ニ人ヲ搭載スル場合ニ當リ曾テ患者死者ノ起居セル既消毒ノ場
所ニ人ヲ坐セシムルモ可ナルヤ

此ノ如キ場合ニハ其場所ヲ區劃シ一定ノ時日間(五日間)人ヲ入ラシムヘカヲス

臨時檢疫局檢疫委員復命書

臨時檢疫局檢疫委員復命書 臨時陸軍檢疫部ニ於テハ臨時檢疫局檢疫委員醫學博
士北里柴三郎ニ似島彦島及櫻島臨時陸軍檢疫所附屬消毒蒸餾ノ試驗ヲ囑託セシニ
其試驗ニ關スル復命書ハ左ノ如シ

明治二十八年五月二十六日似島彦島櫻島ニ於ケル臨時陸軍檢疫所附屬蒸氣消毒